

令和5年秋期 金沢南部地区推進連絡会要旨

1	日時	令和5年11月21日(火)	18:00~19:30
2	場所	金沢町町内会館	
3	参加者	(地域側) 自治会等地域団体関係	28名
		学校関係 (文庫小学校、金沢中学校)	3名
		(支援チーム、その他行政側)	
		区役所	10名
		区社会福祉協議会、地域ケアプラザ	9名
		計	50名

4 テーマ

「つながりを大切に作る地域」～福祉お花見バザーの今後の展開について～

5 意見交換要旨

(1) 開会の挨拶 (金沢南部地区連合町内会会長)

コロナ禍でイベントのできない期間が続いたが、その間で検討や見直す機会を持つことができた。今回はお花見バザーを取り上げて、こうなったらいいなという意見交換ができるとよい。

(2) 金沢区長の挨拶

8月花火大会、10月いきいきフェスタを開催できた。協賛、協力いただいた皆様に感謝申し上げる。各町内会の夏祭りや、スポーツフェスティバルをこれまでのやり方を変えて実施されている。これからのお花見バザーの在り方について、活発な意見交換ができるとよい。地域支援チームも一緒に考えいきたい。

(3) テーマの趣旨説明 (金沢南部地区社会福祉協議会事務局)

柱の一つ「つながりを大切に作る地域」の取組として「福祉お花見バザー」の在り方について、アイデア出し、意見交換を行いたい。

つながりを大切に作る取組みの一つとして、福祉お花見バザーに対する期待は大きく、持続可能な開催方法を考えていきたい。

(4) スポーツフェスティバルとしたことの変化について

- ・コロナ禍で4年間開催できなかったが、その間、役員で実施方法について検討を行った。運営側、特に子ども会の負担が重くなっていた。お弁当なし、半日での開催と整理をしたが、半日としたため、途中で参加を断らざるをえず残念な場面もあった。多くの方に参加してもらい楽しんでいただけたと考えている。(金沢南部地区社会福祉協議会副会長)
- ・子ども会、役員にヒアリングを実施し、町内会対抗種目を廃止し、誰もが参加できる7種目に整理した。玉入れで競争の要素を取り入れた。未就学児を中心として、高齢者等幅広く約450人に参加してもらえた。(金沢町町内会副会長)
- ・保健活動推進員として、健康チェックを実施した。参加された方のコミュニケーションのきっかけとなった。次回も実施していきたい。(柴町町内会保健活動推進員)
- ・スポーツ推進委員、青少年指導員がフィールドに立ち負担感があった。盛り上がる場面は多くありとてもよかった。次年度同じ内容で実施するかは要検討と考えている。今回は実施していないが、「つながり」ということを考えれば、競争性のあるリレーなどはとてもつながりを実感できる種目である。次年度に向けて少しずつでも変えていく必要があるかもしれない。(寺前西町内会スポーツ推進委員)

(5) 福祉お花見バザーのアイデアについて

- ・参考として、京都のビアフェスタでは、約30店が6ブロックに分けてある。そのうち1ブロックで購入するとスタンプをもらえる。3つ以上集めるとくじ引きができるといった仕掛けをしている。そういうことを取り入れる方法もある。(金沢南部地区社会福祉協議会事務局)
- ・これまでベビーカーを押しての参加がすくない印象だった。今年度、雨で中止となり各町内会でのイベントに変更となったが、ベビーカーでの参加が多くみられた。若い世代の参加を促せるとよい。地域の活性化につながると思う。(金沢南部地区主任児童委員)
- ・スポーツフェスティバルは、会場が柴町から遠く、シニアの参加が少ない印象。送迎があるとよいか。(柴町町内会長)
- ・バザー会場と模擬店会場が分かれているため、つながり感がない。各町内会でブースを分けて出店するのも面白いと思う。運営側も各ブースを回ることができ楽しめるのではないか。また、バザー会場と模擬店を同じ場所で行う方法もある。模擬店は、地域の商店等に依頼してもよいか。その場合は売上がなくなるデメリットがある。(金沢町町内会副会長)
- ・町内会で模擬店をだすのは、衛生面からみても厳しくなっている。商店に任せてもよいのではないか。(寺前西町内会副会長)
- ・第4期計画に向けたアンケートは、運営側である役員を対象に実施している。その中で負担感が課題としてあがり、取組みを工夫していった。つながりや社会福祉の面を考えるとバザーは外せないと思われる。子どもはキーワード。リサイクル品をバザーで扱うなど子どもやその家族が集まるアイデアが考えられるとよい。模擬店は地域の商店に声をかけてはどうか。(マリンシティ金沢文庫自治会長)
- ・スポーツフェスタにも出演した特別音楽クラブに参加してもらえると、多くの方に来場してもらえるのではないか。また、ワンコイン(50円)で遊べるゲームを取り入れてはどうか。(寺前東町内会青少年指導員)
- ・バザーと模擬店のどちらも参加してもらえるように探索して答えるクイズを導入してはどうか。(金沢中学校PTA副会長)
- ・ステージを設けての演芸大会はどうか。シニアも参加できる。(金沢町町内会副会長)
- ・バザーはシニアも楽しみにしている。今年度、町内会での実施となった際にコーヒーを無料で配布したところ、各所で交流している様子が見られた。模擬店を地域の商店に依頼すると、多くの人に知ってもらえる機会となり商店にもメリットとなるのではないか。(寺前東町内会民生委員・児童委員)
- ・これまでの固定概念を取り払って考えられるとよい。(金沢町町内会長)
- ・「つながり」の目的をどこに置くのかが肝ではないか。南部だけでなく、区全体が注目する取組みがお花見バザーだと思う。(金沢区社会福祉協議会 事務局長)
- ・費用をかけなくても工夫しだいで子ども達によるこんでもらえる取組ができる。(支援チームリーダー)

6 閉会の挨拶(金沢南部地区社会福祉協議会副会長)

コロナ禍が開けて多くの行事で挨拶をする機会が増えた。負担感は大きいけど模擬店の力の大きさを強く感じている。各町内会のつながりを結集して実施しているのが、お花見バザーであり、とても意義がある。それを踏まえて変えるべきことは工夫して、持続可能な会を検討していく必要がある。